



すまいるだより

「今こそ、お互いを思いやる」

vol 34

【子育てのご相談】
子育て世代包括支援センター
「えがお」(健康福祉課内)
電話 0241(62)6170
メール egao@nani.aitu.org

全 国的に、手洗い・うがい、マスク着用の励行や、人との距離を十分に確保して行動する(ソーシャル・ディスタンス)など、感染症予防のため、新しい生活様式が取り入れられています。

目 に見えないウイルスに、多くの方が不安を募らせる中、新しい生活様式に対応できない方への批判や不満が高まっているようです。
実 際に「なぜかあの子はマスクをしていない」「感染が拡大しているのに、泣く子を連れて買い物をする家族がいる」といったお話を聴く機会があります。

マ ナーを守れない人、自分勝手な人だと、感じてしまうのかもしれませんが、**た**だ、感染症に対し敏感に反応する世の中だから

こそ、私たちに寄せられる切実な相談をご紹介したいと思えます。

そ れは「やむを得ず連れてしまい、飛沫が飛ぶと言われた」「泣いている途中で声をかけると、かんしゃくがひどくなるため見守っていたが、周囲の反応が厳しかった」「子どもが感覚過敏のため、マスクをつけずに過ごしていたところ、マスクぐらいい買ってやったらいいの」と言われ、頭が真っ白になった」というものです。

発 達には偏りがある(得意・不得意の差が大きい)お子さんは、触覚や嗅覚、痛覚などが非常に敏感で、マスクやフェイスマスクの着用が困難な場合があります。
マ スクのにおいで気持ち悪くなったり、不織布の感触

を不快に感じたり、耳にかけるとゴムの圧力で痛みを覚えたりするお子さんがいることをご理解ください。

自 分の思いを伝えることが得意ではないために、普段とは違う状況に強い不安を感じて泣き出し、極限まで我慢を続けた結果、かんしゃくを起す場合もあります。

か かんしゃくとは「パニック」とも称され、全身を使って泣きわめいたり、周りにあるものを壊してしまうなど、一定の興奮状態を指す言葉。

変 化に対して、不安を感じやすいお子さんは、予期しないことが起こると、たとえそれがささいなことでも動揺してしまふ。

前 述のとおり「マスクを」
「お店の中で泣きわめくお子さん」は、私たちの目には見え

ない苦しさで共存しているお子さんなのかもしれません。

W HO(世界保健機関)や厚生労働省は、「発達上の障がいや、マスク着用による支障をきたす健康状態があるお子さんには、マスクなどの着用を強制すべきではない」と明言しています。

多 くの方が当たり前にしていないことを、当たり前にしてきたり、傷ついたりするお子さんやご家族が身近にいるかもしれないことを、まず知ることが大切です。

感 染症にかかった方が悪いわけではない、発達に偏りがあるお子さんが悪いことをしているわけでもありません。

自 分の気持ちに余裕がないときほど、誰かを責めてしまう気持ちが生まれやす

いものです。今一度振り返ってみましょう。

感 覚過敏やかんしゃくは、なく、大人にもみられます。マスクの着用が当たり前となった今、マスクを着用していない方を見かけるとき、まずは「何か事情があるのかもしれない」と想像することから始めてみませんか。

【参考サイト】 感覚過敏研究所
無料で意思表示カードなどをダウンロードすることができます。



感覚過敏意思表示カード



感覚過敏研究所
(<https://kabin.life>)